

県議会議員

あらい、絹世の磯っ子レポート

県政をもっと身近に



<http://www.araikinuyo.jp>

森林整備政策、来年度から拡充へ 県の水源地対策に加え国も新制度

7月上旬に西日本を襲った記録的な豪雨災害は、あらためて自然災害が多発する日本列島の宿命を思い知らされるとともに森林や水の管理の大切さに思いを致すことになりました。これに関連した森林の整備政策ですが、神奈川県では2007年度から独自に水源保全・再生の観点からの特別対策と、これに伴う水源環境保全税制度を導入した取り組みを実施していますが、2019年度からは国が新たに森林環境税を創設し、これを財源とした政策をスタートさせることになりました。森林環境税はすべて自治体に還元され、活動は市町村が担いますが、ここでポイントになるのが県と国との政策がうまく組み合わせられた無駄のないものにしていくことと、県が市町村への支援力を発揮してスムーズな実施・運営体制をつくっていくことにあり、県の役割が重要になっています。

県の水源地対策ですが、県内の市町村のうち県西地区を中心とした19市町村を対象に行われています。毎年約40億円の予算の財源となる水源環境保全税は個人県民税に上乗せされて徴収されており、年間1人平均890円となっています。

国の森林整備政策については、この財源として新たに森林環境税(仮称)、これを自治体に還元するための森林環境譲与税(仮称)の創設が盛り込まれた税制改正大綱が昨年12月、閣議決定されており、今後は来年1月の国会本会議に提案され、可決後来年度から導入される見通しとなっています。これらは温室効果ガス排出の削減目標達成や災害防止などを図る森林整備等の地方財源を安定的に確保する観点から創設することがうたわれています。森林環境税は個人住民税と併せて市町村が窓口となり徴収されます。これは1人平均年間1000円ぐらいで、課税は2024年度から実施されます。2019年度から2023年度までの財源は国が借入金を充当(年間200億~300億円)させることにしています。国からの譲与額ですが神奈川県は当初、年約1.8億円と見込まれていましたが、人口数などを勘案しての約15億円に大幅増の見込みとなりました。

全市町村が対象となる森林整備事業は、事業内容が人材育成・担い手の確保や木材利用の促進・普及啓発などにも拡充され、このスムーズな実施が重要となります。県では7月までに市町村との打ち合わせや担当者との会議をすませるなど、本番、に備えた調整に追われているとのことでした。



コレが言いたい!

新税が検討されていた当初、税の用途は間伐などの森林整備に限定されており、譲与額は森林面積に応じて配分されることとなっていました。本県は、約45億円の徴収に対して譲与額が約2億円となることから「受益と負担の割合が著しく公平を欠く」と島村大参議院議員をはじめ県内選出の国会議員が懸念を表明しました。その結果、木材利用の促進などが税の用途に追加。譲与基準に人口も加味され、県内の譲与額は約15億円に増加されることとなりました。



8月は「食品衛生月間」です。外食・中食への需要の増加等、広域的な食中毒の発生・食中毒発生数の下げ止まり、また2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催などで国際標準と整合的な食品衛生管理が求められることなどから6月13日に食品衛生法の一部が改正される法律が公布されました。

磯子あれ? これ?

中原見守地蔵尊(中原4-1)

昭和5(1930)年、京浜急行の前身「湘南電気鉄道」が開通しました。

お地蔵さまが祀られている京急杉田駅近くには、昭和23(1948)年頃まで遮断機の無い簡素な踏切が在り、地元の人たちはこの踏切を日常的に利用していました。電車の運行以来、昭和23年までに通行人や付近で遊んでいた子供など7名が電車にひかれるなどして犠牲になりました。鉄道会社と当時の中原漁業協同組合、磯子中原農業協同組合中原生産班員と町内会有志の方が、犠牲者の霊を慰めると同時に、以後の事故が起こらないことを願いこの地にお地蔵さまとお堂を建立しました。

昭和27(1952)年頃、踏切は無くなり代わりに人道橋が設置されました。今では、地元の方が通勤通学などに利用しています。

お地蔵さま建立後の昭和57(1982)年3月、お堂の傷みが目立つようになり、有志の方々の募金を元にお堂を改修しました。また、昭和23年以後の犠牲者を合祀した合同の法要も行われました。

今でもお堂内の清掃を行い、花を供えるなどして近所の方がお守りしています。



参考:中原見守地蔵尊由来記・地元の方のはなし

活動報告

かながわ自民党水産業を振興する議員連盟で、全国で3番目に開設された「横浜市中央卸売市場」を視察。毎月第一・第三土曜日に市場開放しており、魚の詰め放題やマグロの解体ショー、魚の捌き方教室などを行い市場の魅力を宣伝しています。また、市場と県内の漁港が近いことから、通常のせりを追いかけるように朝どれの近海魚が入荷する「追っかけ」も行っているのが特徴です。

しかし、市場での取扱高のうち



県内産の水産物は僅か7%。今後も県内の漁港と連携しながら県内産の取扱量を増やす取り組みを検討していく必要があります。



桜木町駅にて「平成30年7月西日本豪雨」被災地救援募金活動を行いました。

あらい絹世プロフィール

- 昭和43年3月8日 横浜市磯子区生まれ
- 横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- 日商岩井(株) / (株)メタルワン
- 自民党かながわ政治大学12期生
- 平成27年4月 県議会議員2期目当選
- 産業労働常任委員会委員
- ともに生きる社会推進特別委員会委員長
- 美しい環境づくり推進協議会委員
- 政務調査会副会長

